

第17回ATAC社長懇話会記録

平成25年2月15日に18名の企業トップの参加を得て利昌（リョウ）工業株式会社尼崎工場を見学し、利倉（トケ）暁一会長の講話を伺いました。

社長懇話会は中小企業の経営者の交流にATACがお手伝いできればと考えて2003年にはじめたものです。



◆当社の生い立ちと製品の特徴

現会長の御父君が1921年に大阪で絶縁材料の製造を始め、戦時中に尼崎に疎開してきたのが尼崎工場の始まりです。現在は、滋賀工場（栗東市）、湖南工場（湖南市）のほか、中国の無錫にも進出しています。

製品は、エポキシ樹脂による乾式絶縁方式の変圧器、フェノール樹脂を使ったプリント配線用銅張積層板など、絶縁材料を使った製品が特徴です。

◆工場見学

展示室で製品の説明を受けた後、製造工程、3研究所を見学しました。

＜製造工程＞

当社が日本で始めて製造した、コイルを絶縁体のエポキシ樹脂で封止した乾式トランスの製造ライン、絶縁材の原料のフェノールワニスの自社製造ライン、ワニスを繊維に含浸させるプリプレグ製造ライン、銅箔とプリプレグを30段重ね、2000トンプレスで加圧する積層板製造ラインなどを見学しました。なお、滋賀工場には全自動の2500トン25段プレスが稼働中です。

＜研究試験設備＞

化学技術研究所、電機研究所、商品開発研究所を擁し、多くの研究試験装置を保有している。

また雷による変圧器などの絶縁性試験のための120万ボルトの高圧実験室を見ました。

◆利倉暁一会長の講話

一時間にわたり利倉会長から経営に関連した貴重なお考えを聞きました。その幾つかを挙げると、

- ・企業の組織を強くすることを心がけてきた。大きくすることは望んでいない。
- ・企業の目的は社会に貢献することである。

- ①利益を出して納税で国家へ貢献、
- ②リストラのない安心な会社にして社会へ貢献、
- ③役に立つものを生み出すことで未来に対して貢献。

・私の経営は守りの経営である。

- ①自主独立（株式は一族で保有）、
- ②資産は決して売らない、
- ③社員は絶対リストラしない、を実行している。

・大企業は戦略さえあやまらなければ潰れないが、小企業はそうはゆかない。小企業ほど経営は難しい。

・日本企業が生き残っていくためには、

- ①引き合うものをつくる、
- ②引き合うようにつくる（合理化）、
- ③引き合うところをつくる（海外進出）、

の3つの道があるが、利昌は雇用を守るために①の引き合うものを作ってきた。

・当社はOnly oneだけでなく、Last oneになることも重要であると考えている。Last oneは苦しくても最後まで続けると同業が止めていき、利益を生む事業になる。しかしLast oneだけでは時代に取り残される。改良を加える、全く新しいものにチャレンジすることも大事である。

・カントリーリスクについては、いざという覚悟がないといけない。ズルズルでは止めるに止められず、先方も止めさせてくれない。「あげる」と言えるように心がけるべきである。

利倉会長の凛としたお話しに全員聞きほれ、感服した1時間でした。

◆交流会

交流会では利倉会長と企業参加者、ATACメンバーの間で有益な情報交換が行われ、本会の目的が達せられたと自負しています。

（明石・池田隆）



大阪科学技術センターATAC第17回社長懇話会 於：利昌工業株式会社 2013.2.15